

書名 項目	新編 新しい理科	2 東 書
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験内容をイラストや写真を用いてわかりやすく説明し、実験する前の状態から実験後どのように変化したのかが理解しやすくなっている。 ・6年の唾液を用いた実験では、児童の抵抗感をなくす工夫がされている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元末での「考えよう」では、自身の実験結果を基に「考えよう」で起きている実験を正しく行うための手段を日常生活と関連させ、思考力、判断力、表現力の向上につなげている。 ・「広げよう理科の発想」では、学んだことを他の事象を用いて考えることで共通性や多様性など、ものの見方や考え方を重視できる形となっている。 ・「思い出そう」では、既習の学習での内容を想起させ、実験内容を追加できるようにしている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元始めの「レッツトライ！」では、写真、イラストと初発の問いを見開き2ページを用い、単元に対する興味関心を高める工夫がされている。 <p>＜見通しをもって観察、実験を行うための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の一連の過程「問題→予想→計画→実験・観察→考察（考えよう）→まとめ」が3～6年で統一されている。 ・3年昆虫の学習の単元構成が工夫され、成長を観察しやすくなっている。 <p>＜自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「理科の世界」では、学習したことが実生活の中でどのように活用されているのかを確かめられるようになっている。 ・「たしかめよう」では、実生活での現象等について、学習したことから言えることを記述や選択式で答える形となっている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・比較するための写真が大きく違いが見やすくなっている。 ・問題をつかむ場面では、写真に加え、どんな視点や考え方ができるのか例示されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・表記がゴシック体で統一され、見やすい形となっている。また、実験観察で注意すべきところは赤字で強調されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の過程を学びのラインでつなぐことで、児童が思考しやすい構成となっている。 ・既習している考え方や実験等を理科のミカタで例示するなど、各学年との関連も意識できる構成となっている。 	

書名	新版 たのしい理科	4 大日本
項目		
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察、実験で使用する用具の詳しい使い方が、巻末ページに記載されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題を見出すページ、考察のページに、児童の思考のヒントとなる【ココに注目】というコーナーを設けている。 ・登場人物に思考、表現させることにより、児童の思考、判断、表現のヒントにしている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・『問題を見つける』、『問題』、『予想』、『計画』、『観察・実験・調べる』と『結果』、『考察』、『結論』が別ページになっており、結果が分からないようになっている。 ・単元の終わりには、学習内容と関連した資料や、別の実験方法等の資料が記載されている。 <p><見通しをもって観察、実験を行うための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察、実験の方法を大きめに記載している。 ・観察、実験の順は①、②、③と数字で順番に記載されている。 ・すべての単元で『問題を見つける』、『問題』、『予想』、『計画』、『観察・実験・調べる』、『結果』、『考察』、『結論』の流れになっている。 <p><自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象についての問題を解決するための観察・実験の方法が記載されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs や防災、環境等、学習内容と関連付けた資料が充実している。 ・観察をする際に、注意すべき危険な動植物の名前とイラストが記載されている。 ・ジャガイモやホウセンカ等、実験や観察で使用する植物の準備の仕方が、最初の方のページに記載されている。 ・観察や実験のページには大きめの写真やイラストを掲載している。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の学年によって、漢字、平仮名の表記を変えている。また、難しい言葉には読み仮名がふられている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物にバリエーションをもたせており、頭髪や肌の色もさまざまである。多様性を重視している印象を受ける。 ・字間や行間がゆったり広めに設計されており、文章がすっきり読みやすい。 	

書名 項目	みんなと学ぶ 小学校 理科	11 学 図
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ・実験中の注意事項が赤文字で大きく示されている。 ・「大切な言葉」が一覧で掲載されていて、復習等に活用できる。 ・観察や実験方法などが巻末にまとめられていて確認しやすい。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ・観察の方法や予想するときの理由など学年に応じて型が用意されていて、それらを元に文章表現を考えることができる。 ・登場人物のセリフが途中で「○○…」となっていて、その後の文章を考えることで、思考の一助とすることができる。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ・各単元にSDGsの目標が示されている。 ・裏表紙の登場人物の絵が、その学年ごとに学んだことが活かされる職業の紹介になっていて、児童の興味関心を引き出すことにつながっている。 </p> <p> <見通しをもって観察、実験を行うための工夫> ・「理科モンスター」として身につけたい力が明確に示されている。 ・教科書の登場人物が、様々な疑問を示していて、見通しを持って学習を進めることができる。 ・4年間の学習の流れが書かれているので、学年に応じてどんな力を求められているのか、教員も把握しやすい。 </p> <p> <自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫> ・観察の視点や、ポイントが細かく、強調されて書かれている。 ・観察・実験→わかったことから、さらに問題につながるように構成されている。 </p>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> 科学的な読み物の多くにQRコードがついていて、NHK for schoolなどの動画や、教材のリンクとなっていて、気になったら詳しく知ることができるようになっている。 「科学者を知ろう」というページで、学年で身につけた力を活かして有名になった科学者を掲載していて、児童が興味を持ちやすい。 	
表記・ 表現	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の登場人物が学年に応じて見た目の成長が見られるので、共感して学習を進めることができる。 ふりがなだけでなく、勘違いしやすい言葉の上に、「・」が打たれている。 写真が多く、同じ内容の違う場所の写真などの掲載もある。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> 掲載されている資料、QRコードによる資料の数はとても多い。児童の興味関心を高める工夫も多くされている。 一方で、実験のページに、結果と一緒に掲載されているところも多く、教科書で実験方法を確認してしまうと同時に結果もわかってしまうことが起こりそうである。 	

書名 項目	未来をひらく 小学理科	17 教 出
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験の様子を写真や動画に撮る際の「撮り方」を紹介するなど、デジタルを活用した学習が効果的にできる内容になっている。 ・各単元末にある「ふり返ろう」で、その単元で学んだことを簡潔にまとめられており、学習をした後で学習事項を確認することで知識・技能を身に付ける手助けになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年で主に育てたい力が身につくように「〇年のチカラ」と標記されており、児童や指導者の助けとなっている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「メッセージ」では、専門家の考え方にふれることで、理科を学ぶことの楽しさや有用性を感じることができる。 ・単元の最初のページに、これから学ぶことが身近な生活の中で活かされていることを示すことで、学ぶ意欲を高めさせる工夫が見られる。 <p><見通しをもって観察、実験を行うための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の初めに「学習のつながり」で既習事項とこれから学ぶことへのつながりが、一目でわかるように表記されている。 ・基本的な実験器具の使い方をどの学年にも載せることで、すべての児童が観察・実験に取り組みやすくなっている。 <p><自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想を複数掲載することで、より科学的な物の見方で考えることができる。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料が豊富で、1つの単元で複数の資料があり、ムサシトミヨや秩父夜祭などの埼玉県に関する写真が多く掲載されている。 ・巻末には各学年に沿った「巻末ずかん」があり、児童の自主学習にもつながられるようになっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科（算数・道徳など）と関連付けて教科横断的に扱える内容が詳しく標記されている。 ・より多くの人が見やすいように、識別しやすい配色が用いられている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ・大きくインパクトのある写真や身近な事柄の中での活用場面を載せることで、理科への興味・関心を高める内容となっている。 ・他教科との関連や上下の学年との系統性が意識された構成になっており、小学校の全学習の中の理科という意識を感じる。 	

書名 項目	<h1>楽しい理科</h1>	26 信 教
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <p style="text-align: center;">※見本本がないため研究なし</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p><見通しをもって観察、実験を行うための工夫></p> <p><自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫></p>	
資 料		
表記・表現		
総 括		

書名 項目	<h1>わくわく理科</h1>	61 啓林館
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT の活用場面と目的が例示されているため、ICT を活用しやすくなっている。 ・ 「スマートかいせつ」という解説動画がついているので、自主学習で何度も確認できるなど、理解度に合わせた個別最適な学習を行うことができる。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「見方・考え方マーカ―」で、児童が意識的に理科の見方・考え方をはたらかせられるようになっている。 ・ 「見つける」「調べる」「まとめる」の大きな柱の下、「問題」「予想」「計画」「観察」「結果」「考察」「まとめ」「もっと知りたい」のサイクルで学習を進める工夫がとられており、思考過程を意識しながら学習できる工夫がある。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ STEAM 教育と関連し、理科だけでなく、アートなどの他分野との関わりにもふれることで総合的に理科への関心も高まるような工夫がされている。 <p>＜見通しをもって観察、実験を行うための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「学びのライン」によって、問題解決からまとめ、さらに次の問題への一連の流れが明示されており、学習の流れを把握することができる。 ・ ICT のマークがついているので、必要な場面で効果的に ICT を活用できる。 <p>＜自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単元末の「活用しよう」で、身近な事柄に関連した問題が出題されており、身近な事柄を科学的に考えることができる。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・ WaCBT という CBT ならではの問題がついているので、ICT を活用した問題に取り組む経験をすることができる。 ・ 全単元末についている「くらしとリンク」で学んだことと身近な事柄がつながり、学ぶ意義や有用性を知ることができる。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全配慮のマークが分かりやすく表示されており、一目で何に注意すべきかがわかる。 ・ QR コンテンツが豊富で、実験器具の使い方などをデジタル化して視覚的に利用できるようになっている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ・ QR コードや WaCBT などのデジタルコンテンツが豊富にあり、ICT を活用する場面や活用する方法などが掲載されている。一人一台端末の時代において実践的な教科書になっている。 ・ 思考過程や思考方法を客観的に把握できるような構成になっており、科学的な思考力を育成する工夫がみられる。 	